



国際

沿岸レポート

# 第5回日韓沿岸技術研究 ワークショップの報告

一般財団法人沿岸技術研究センター  
主任研究員 勝呂 和之

## 1. はじめに

韓国海洋科学技術院 (KIOST)、国立研究開発法人港湾空港技術研究所 (PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団 (WAVE) および一般財団法人沿岸技術研究センター (CDIT) は、年1回の合同ワークショップを通じて、沿岸防災、沿岸域管理および沿岸環境等の分野において、技術交流を行っています。第5回目となる今年は、韓国の釜山に移転したKIOSTの研究施設で開催される予定でありましたが、移転の準備が進まず急遽、ホテルの会議室での開催となりました。日本からは総勢12名が訪れました。12月20日から22日までの3日間、ワークショップの他、釜山港湾公社 (BPA)、釜山新港 (Busan New Port) の視察を行いました。

## 2. ワークショップ

ワークショップは Crown Harbor Hotel の会議室において開催され、日本の訪問団を除いても30~40名程は聴講していたようでした。テーマは、1) Coastal Disaster and Response、2) Coastal Management、3) Coastal Environment、4) Technical Development の4つに分類され、3編ずつ計12編の講演がありました。例えば、2) Coastal Management のセッションでは、気候変動に対する汀線変動予測とリスク評価に関する発表、また、4) Technical Development のセッションでは、流起式可動防波堤の開発について、課題は多いものの、実現に向けた一つ一つの取り組みに関する発表等がありました。一日を通じて、参加者は大変関心を持って聴講していた様子で、用意された質疑応答の時間が不足するくらい活発な討議が行われました。

テーマごとの個別の講演の他にも、沿岸技術研究センターの高橋理事長が特別講演の依頼を受け、Lessons Learnt From 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami Disaster (写真1) として、粘り強い、強靱な沿岸域をキーワードに2011の東



写真1  
CDIT高橋理事長による  
特別講演



写真2 講演者および関係者一同

日本大震災の事例等を盛り込んだ講演を行いました。皆さん熱心に聴き入っており、特に韓国の研究者からは多くの質問がありました。閉会後には、講演者および関係者一同による記念撮影が行われ、和やかな雰囲気が終わることが出来ました(写真2)。

## 3. 釜山新港の視察

期間中、KIOST 名誉研究委員 <sup>アンボド</sup>安熙道博士のご案内で、釜山の代表的な港湾施設として、釜山新港(写真3)の視察を行いました。その中で特に印象深かったのは、大量のコンテナを毎日荷さばきしている、世界で4位の大きさを誇るというターミナルでした。その他にもいくつか視察させて頂きましたが、参加者は皆それぞれに関心を持って見学されていたようでした。



写真3 釜山新港

## 4. おわりに

安博士はじめKIOSTの職員の方々には、準備を含めて期間中大変お世話になりました。お陰様で有意義なワークショップになったことはもちろんですが、沿岸域の研究開発に携わる日韓の技術者交流が友好的かつ着実に進められていることを改めて実感した訪韓となりました。厚く御礼申し上げます。また、PARIの下迫特別研究官並びにWAVE 鬼頭理事長には大変お世話になりました。ここに記し、謝意を表します。